

京都光華女子大学カウンセリングセンター ご案内

当センターでは、さまざまなこころの不安・悩み、心理・発達の問題について、ご相談に応じます。なお、ご相談の内容について秘密は固く守られます。

申し込み方法 *必ず事前にお電話にてお申し込みください。(完全予約制)

電話番号 : 075-325-5281

受付時間 : 月～土(祝祭日除く) 午前10時～午後5時

開室時間 : 月～金: 午前10時～午後7時 / 土: 午前10時～午後5時(祝祭日除く)

料金 : (初回) 3,000円
(2回目以降) 個人面接2,000円 / 親子並行面接3,000円

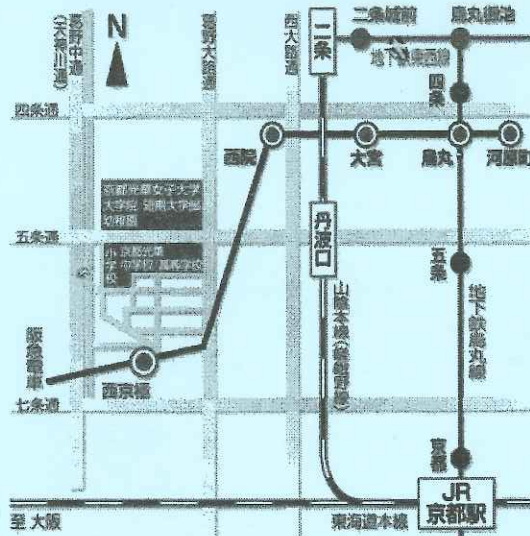
面接時間 : 1回50分

面接担当者: 大学院生(臨床心理学専攻)、研究生(本大学院修了生)
専任カウンセラー、本学教員

*その他、詳細はお電話にてお問い合わせいただくか、下記HPをご覧ください。

URL : <http://www.koka.ac.jp/institution/counseling.html>

地図・交通機関ご案内



阪急京都線

「西京極駅」下車 徒歩7分

JR

京都駅からバス約25分
「光華女子学園前」下車 徒歩1分
京都バス…84系統
市バス…27・32・73・80・84系統

センター受付事務室

五条通 北側

京都光華女子大学内
慈光館地下1階

光華*こころの手帳 編者 徳田仁子

(荒木、石政、小島、重光、田代、藤川、松田)

—第22号—

発行者 カウンセリングセンター長 長田 陽一

発行所 京都光華女子大学カウンセリングセンター

〒615-0882 京都市右京区西京極葛野町38

こどもと女性のための相談室

光華*こころの手帳

第22号



京都光華女子大学

カウンセリングセンター

平成29年5月発行



ご挨拶



風薫る季節となりました。皆さまいかがお過ごしでしょうか。おかげさまで「光華・こころの手帳」も第22号を発行することが出来ました。新しい環境となられた方は落ち着いてこられた頃と思いますが、「5月病」といわれる何かわからないモヤモヤしたものを感ずる時期でもあります。不安や苦しみを一人で抱えこまず、ぜひお気軽に、当カウンセリングセンターへお出かけください。苦しい想いに寄り添い、少しでもお気持ちが楽になるお手伝いができればと日々研鑽を積み、お待ちしております。



「子どもを育てること」

いまにし とおる
今西 徹 (本学准教授・臨床心理士)



子どもを育てることというのは、当たり前のようになされていることでありながら、実際のところは本当に大変な仕事だとつくづく思います。まだ学生をしていたくらいのこと、恥ずかしい話ですが私は人の親になることなんてとてもできないと思っていました。自分のことだけでも十分手に負えないと思っているのに、このうえ自分とは別の生命に対して責任を持つことなど、途方もないことに思えたのです。

朝日新聞朝刊に鷺田清一氏が連載中の「折々のことば」に、「ある若い母親」の、こんなことばが取り上げられていました(2017年3月16日)。

「昔やったら、粗大ゴミなら海に捨ててもいいと思ってたけど、人の親になった今、そんなこととしてはいけない」

このお母さんは、「昔、ちょっとヤンキーがかったいたらしい」のですが、ちょっと胸を打たれるというか、こころに響くことばでした。ことばは荒削りで、なかなか大胆な表現をなさっていてひやりとするところもありますが、むしろこういうことばだからこそ、ストレートにこちらに伝わってくるのかもしれない。

このお母さんのことばのすごいところは、「わが子」の将来を案じるというのではなく、「人の親」として、この時代の子どもすべての未来を考えて、それを自分の担うべき役割として背負おうとしているところだと思います。

どうしたらこのような覚悟をもつことが可能になるのだろう、と思う一方で、子どもを育てるうえで、それが必要となることもあるかもしれないとも思います。自分のことだけ考えているというのは、実は苦しいことですし、「わが子」の将来のみを考えてしまうと、煮詰まってしまって妙な方向に行ってしまうそうです。

「子どもみんな」の未来を考えるくらいに、どっしりとした覚悟が決まってしまうと、自分のこともわが子のことも相対化され、自分やわが子に意識が集中してしまうことから解放され、むしろ楽になるのではないのでしょうか。また、みんなでみんなの子どもを育てるという意識をもつことができれば、自分だけで子どものことをなんとかしなければならぬと力まなくてもすむようになるということもあるかもしれません。

当センターも、みんなで育てるという仕事の一部を担わせていただければと考えております。お気軽にご利用していただければ幸いです。

大学院研究生コラム

この春から実家に戻り、毎日帰ると飼い犬が出迎えてくれる生活になりました。4年前に家を離れた時よりも真っ黒の毛に白の毛が混じるようになっていましたが、近所の猫を見張ったり外出する家族を見送ったりと犬のお仕事は変わっていませんでした。犬と過ごしていると、豊かな表情があることも分かるし「あ、この子今こう思っているな。」という私の想像もかなりあたっているのではと思えてきます。家族の誰かがため息を吐いたりイライラを無意識に表したりすると自分が怒られたかのように落ち込み、私たちが笑い盛り上がっていると自分も！というように参加してきます。犬の正直すぎる行動で笑いが増えました。そんなうちの犬はご近所さんや宅配便の方に人気があり、配達物もないのにわざわざ家に寄って名前を呼んでくれる方もいます。素直に感情を出しいつの間にか人を集め癒すというのは、色々と考え過ぎてしまう人間には難しいなあと思います。家族や近所の方々を癒すという大変な仕事ができるのは一番に“人が好き”だからこそできるのではないのでしょうか。そんな身近なセラピスト犬を見習い感謝して、思う存分遊んであげようと思います。(N)

